

JENESYS2024 ASEAN 同窓生のオンライン訪日プログラムの記録 (テーマ：エネルギー・気候変動)

1. プログラム概要

【目的・概要】JENESYS で訪日経験のある ASEAN 諸国及び東ティモールの同窓生を対象に、「エネルギー・気候変動」をテーマとして、日本への更なる理解促進、ネットワーク強化、同窓生活動の活性化を目的にオンラインプログラムを実施しました。

【参加者】ASEAN 諸国^(注) 及び東ティモールの同窓生（2015 年度～2023 年度の参加者） 合計 53 名
(内訳) インドネシア 3 名、カンボジア 3 名、タイ 1 名、フィリピン 17 名、ベトナム 1 名、マレーシア 3 名、ミャンマー 1 名、ラオス 3 名、東ティモール 21 名

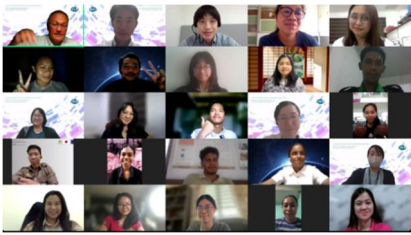
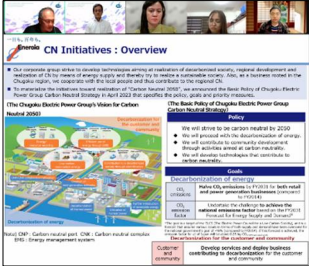
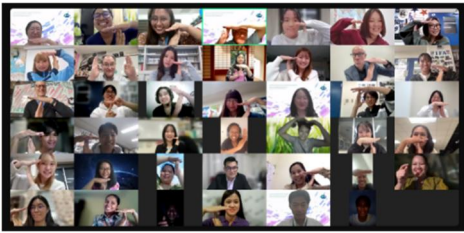
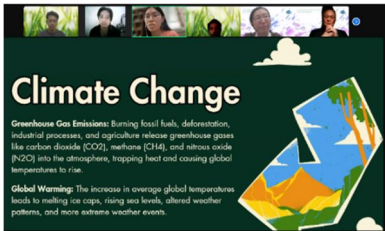
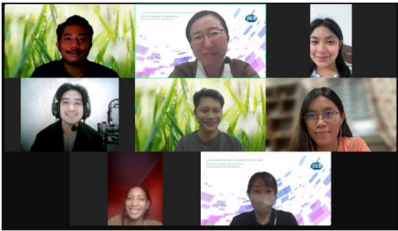
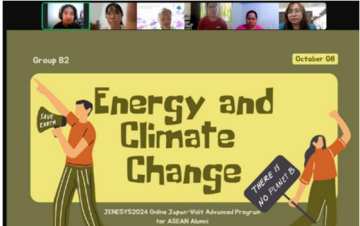
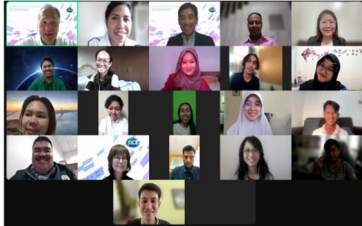
(注) ASEAN 諸国：インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス

【日程】

9 月 30 日 (月曜日)	【オリエンテーション】 【挨拶】 外務省アジア大洋州局地域協力室 高水 英郎 室長 【テーマ関連講義・意見交換】 「日本に置ける脱炭素の動向とそれを踏まえた国土交通省の取り組みについて」 講師：国土交通省総合政策局環境政策課 司馬 勇彦 課長補佐 【参加者間交流】 グループ別自己紹介・役割分担確認等
10 月 1 日 (火曜日)	【講義】 「中国電力グループの環境への取り組み」 講師：中国電力株式会社カーボンニュートラル推進本部環境計画グループ マネージャー 田淵 浩 氏 【参加者間交流】 グループディスカッション
10 月 2 日 (水曜日)	【学校交流】 東海大学 札幌キャンパス
10 月 3 日 (木曜日)	【視察】 「札幌市の気候変動対策 ～円山動物園の取り組みから～」 講師：札幌市環境局 円山動物園 保全・教育推進課 佐竹 輝洋 保全・教育担当係長 【参加者間交流】 グループディスカッション
10 月 4 日 (金曜日)	【参加者間交流】 「自国のエネルギー・気候変動に関する意見交換」
10 月 5 日 (土曜日)	【文化体験】 書道 書道講師：True Japan Tour 株式会社 柿沼 幸雄 氏
10 月 7 日 (月曜日)	【ワークショップ】 再訪日成果のまとめ、アクション・プランの作成
10 月 8 日 (火曜日)	【報告会】 再訪日成果・アクション・プランの発表

このプログラムは、JENESYS2024 ASEAN 同窓生のオンライン訪日プログラム（テーマ：海洋安全保障・法の支配）と一部合同で実施しました。

2. 記録写真

	
2024 年 9 月 30 日【挨拶】 外務省アジア大洋州局地域協力室 高水 英郎 室長	2024 年 9 月 30 日【テーマ関連講義】 「日本に置ける脱炭素の動向とそれを踏まえた 国土交通省の取り組みについて」
	
2024 年 10 月 1 日【講義】 「中国電力グループの環境への取り組み」	2024 年 10 月 2 日【学校交流】 東海大学 札幌キャンパス
	
2024 年 10 月 3 日【視察】「札幌市の気候変動対 策～円山動物園の取り組みから～」	2024 年 10 月 4 日【参加者間交流】 「自国のエネルギー・気候変動に関する意見交換」
	
2024 年 10 月 5 日【文化体験】書道	2024 年 10 月 7 日【ワークショップ】
	
2024 年 10 月 8 日【報告会】	2024 年 10 月 8 日【報告会】

3. 参加者から寄せられた質問・関心事項（抜粋）

◆ 中国電力グループの環境への取り組み

- ・ 原子力を管理するのは難しく、リスクも大きいと知られていますが、そのような中、どうして先進国である日本がこの危険な選択肢を選ぶのでしょうか。
- ・ 広島大学スマートシティ共創コンソーシアム^{（注）}ではどのような活動が行われていますか？私たちの国でも適用可能でしょうか。

（注）広島大学スマートシティ共創コンソーシアム：持続可能な社会の実現を目的とし、広島大学が代表となり、広島市及び複数の民間企業が連携して設立された取り組み。中国電力株式会社も参画機関の一つ。

◆ 札幌市の気候変動対策 ～円山動物園の取り組みから～

- ・ 気候変動に関する啓蒙プログラムはとても興味深いです。教育的取り組みを、より多くの訪問者、特に若年層の聴講者に広めるためにどのような計画がありますか。
- ・ 太陽光発電をして低炭素化を図っていますが、別の再生可能エネルギーもしくは技術を利用して、さらなる低炭素化を図っていますか。

◆ 書道

- ・ 漢字・ひらがな・カタカナをそれぞれ、または組み合わせて使うことにより、作品の表現は変わりますか、また、表現したい作品によってそれらの組み合わせを考えていますか。
- ・ 筆や墨の品質は、作品の出来栄に影響しますか。
- ・ 書道の作品は、若い世代に対して、贈り物となり得ますか。

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 東ティモール 大学院生

私の国も気候変動問題に直面しており、短期的に解決する必要があります。グループ内での共有と議論では、参加者全員からさまざまなアイデアが出されましたが、それらは大変素晴らしく、私の視野を広げ、エネルギー業界で働く意欲を高めてくれたことは幸いでした。さらに、温室効果ガス排出量とエネルギー源に関する共有セッションにも非常に興味を持ちました。

◆ フィリピン 社会人

個人の見解ですが、このプログラムは知見に満ちた体験で、持続可能なエネルギー及び気候変動に対する日本の革新的なアプローチに関する理解を深めることができました。他の ASEAN 同窓生と意見交換は、重大な世界的課題について協働することを促しました。

さらに、協力の重要性と、私たちがそれぞれのコミュニティにおいて、環境のポジティブな変化を推進する役割が強調されました。

◆ マレーシア 大学院生

有意義でした。エネルギー・気候変動における日本の技術について多くを学びました。中国電力が実施しているプロジェクトの幾つかは、私の研究分野に関連しており、得るものが多かったです。さらに、日本、他の ASEAN 諸国、東ティモールの新しい友人ができました。私の SNS 発信に皆がリアクションをくれることが嬉しいです。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 講師

国土交通省としても今後のルール作りに ASEAN 諸国と連携を模索しており、日本の取り組みを共有できて良い機会になりました。今後ともよろしくお願いいたします。

◆ 講師

参加者の反応が良く、多くの質問をいただき、フィリピンを中心に様々な国のエネルギー事情を知ることができたのは有益でした。

◆ 交流校学生

日本での大学生活や日常生活に興味を持ってくれている方が多くて、とても嬉しく感じました。自分の英語の力を試す場としてとても良かったです。質問に対しても積極的に答えてくれました。

◆ 交流校関係者

とても楽しく、フレンドリーでした。特にブレイクアウトルームでは、お互いをよりよく知ることができました。フィリピンから来たある参加者は、伝統的な民謡をグループで歌ってくれました。皆にとって、とても楽しい時間でした。

学生たちは皆、興味深く楽しかったと言い、将来どこかの国へ旅行してみたいと改めて思ったそうです。オンラインでもいいのですが、実際に旅に出るのはもっといいものです。できればもっと多くの学生を海外に送り出したいと思っています。また、交流イベントなどで海外の方が来校される際には、ホスト校としてお役に立てれば幸いです。

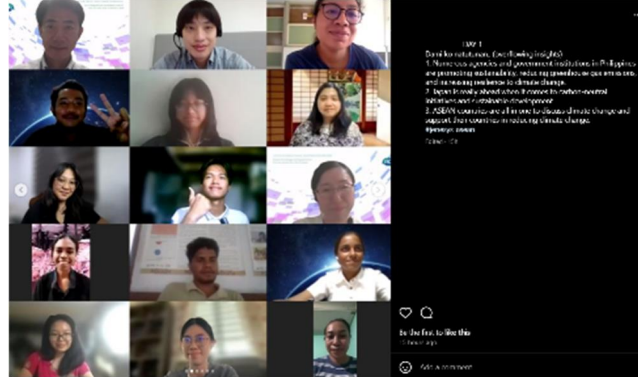
◆ 講師

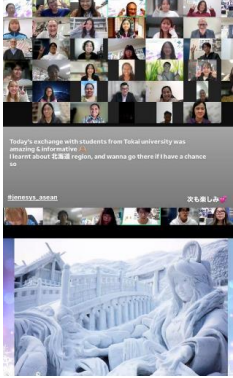
今回の参加者は北海道や札幌に来たことがない方々だったので、札幌の取り組みを発信することで、札幌や円山動物園への関心や興味を持っていただけたのではないかと思います。札幌市の持続可能性とその魅力を発信したいです。個人的には今後、東南アジア地域との交流事業などができればと思います。

◆ 講師

参加者から、数多くの、内容の濃い質問がありましたが、書道への強い興味と真剣にプログラムに参加していたことの証左ではないかと喜んでいます。今回の参加者の書道に対する強い関心を目の当たりにし、今後ともこのプログラムが継続することを願っております。

6. 参加者の対外発信（抜粋）

	
2024 年 9 月 30 日（Instagram）	2024 年 9 月 30 日（Instagram）

マレーシア 大学生 JENESYS プログラムに再び参加できてとても嬉しいです。参加理由は、日本の組織からエネルギー・気候変動の取り組みについて学ぶことに興味があるためです。今日の講義は、電気自動車の交通利用、ブルーカーボン生態系などによるCO₂排出量の削減及び気候変動への取り組みに重点を置いていました。紹介されたデータや図表は、上記手法の高い効果を示していました。日本のミッションは 2050 年までにカーボンゼロを達成することです。	フィリピン 社会人 知見に満ち溢れていました。 1. フィリピンでは、組織や政府機関が持続可能性を促進し、温室効果ガスを削減し、気候変動に対する対応力を高めています。 2. 日本はカーボンニュートラルの取り組み及び持続可能な開発という点において、真の意味で先を進んでいます。 3. ASEAN 諸国はすべてが一つとなり、気候変動について検討し、気候変動の軽減における各国への支援を行うべきです。
	
2024 年 10 月 2 日 (Instagram) ミャンマー 高校生 東海大学の学生との今日の交流はとてもすばらしく、有意義でした。北海道について学びましたので、機会があれば訪問したいです。	2024 年 10 月 9 日 (Kompasiana 電子版) さよなら、エネルギー・気候変動の報告会 2024 年 10 月 8 日 (火曜日) は、JENESYS 2024 オンライン日本訪問プログラム(ASEAN 同窓生向け)の最終日でした。8つのグループ(A1~A4、B1~B4)は、報告会でプレゼンテーションを行いました。以下はBグループ(エネルギーと気候変動)が発表した内容です。 B2グループのアクション・プランは「ポッドキャスト」で、とても興味深いものでした。その実施がどのようなになるのか、とても楽しみです。(後略)

7. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

オンライン訪問地：北海道、東京都 全4グループ発表

グループ B1



【成果の発表】

◆ 訪日全般の学び：

東海大学との交流では日本の友人との繋がりが深まり、日本文化の新しい側面を知りました。自国に適用可能な日本の技術を学びました。

書道では、筆と墨を使い、芸術的・精神的意義を表現しました。書道は文化遺産であり、特有の文化探訪へと誘ってくれます。

◆ エネルギー・気候変動の学び：

日本は、GX（グリーントランスフォーメーション）により、クリーンエネルギーを用いた産業構造へと変化しつつあります。ハイブリッドダムなどの新しい取り組みにより、再生可能エネルギーの利用を図り、スマートシティ構想など各種取り組みを支援しています。動物園では環境教育を行っています。

【アクション・プラン】

「気候行動に関する小さな努力、大きな影響」

10月24日 世界気候変動の日に、グループの各メンバーが中心となり、当該分野に関心のある人に向けてエネルギー・気候変動に関する情報共有を行います。

エネルギー・気候変動に関するデータや情報を、図やイラストを使用して誰にでもわかりやすく整理し、各言語に翻訳したものをSNSで共有します。

グループ B2



【成果の発表】

◆ 訪日全般の学び：

- ・ 日本人及びコミュニティは環境を重視しています。
- ・ 日本の技術及びイノベーションによる貢献を学びました。
- ・ 学校交流から、日本の大学生活、日本の四季・食文化などに関する学びを得ました。
- ・ 書道体験から、集中・忍耐などの精神的部分の重要性を知りました。

◆ エネルギー・気候変動の学び：

日本の 2050 年 CO₂ 削減目標、コミュニティ協働などの重要性は知っていましたが、プログラムでは中国電力などに見られる、環境責任へのコミットメント、地方の取り組みなど、より深淵な学びを得ることができました。地域協力、コミュニティの関与が効果的であると学びました。

【アクション・プラン】

「ポッドキャストによる取り組み」

私たち B2 グループは、大学の学生・教職員、若手専門家、環境活動家などの協力を募り、気候変動の解決策などの情報共有、地域における持続可能な社会への実現の促進のため、ポッドキャストを用いて専門家へのインタビューやディスカッション、コミュニティ・リーダーによる情報共有を行います。2024 年 11 月～2025 年 2 月の期間を 5 つのフェーズに分割し、準備・実施していきます。

グループ B3



【成果の発表】

◆ 訪日全般の学び：

以下について、改めて学びを得ることができました。

- ・ 学問、課外活動など日本の大学文化
- ・ あいさつ、文化、規範
- ・ 敬意、チームワーク、規律の重視
- ・ 日本及び ASEAN 諸国の文化的意識の重要性
- ・ 将来の学術及び専門的な協力に向けた、国際的なネットワーク構築、効果的なコミュニケーションの重要性

◆ エネルギー・気候変動の学び：

エネルギー・気候変動に関する類似事項、新規事項を含む以下の学びを得ました。

- ・ 日常生活や重要な分野における課題
- ・ 解決策に関する更なる研究
- ・ 官民連携（PPP）導入
- ・ 情報発信および啓蒙活動の強化
- ・ 国・自治体のインセンティブ案

（アクション・プラン）

「気候変動に強靱な農業」

気候変動に対応できる強靱な農業に関して、Zoom にて情報共有を行います。各国から専門家を招待し、2025 年 1 月中の実施を目指します。

グループ B4



【成果の発表】

◆ 訪日全般の学び：

新幹線など、日本はその革新的な交通システム及び高度なインフラで知られています。そのようなインフラ整備についてもサステナビリティ統合に向け、政府の規制が非常に重要であることを学びました。

◆ エネルギー・気候変動の学び：

日本政府は、交通・建設政策により CO₂ 排出量を低減し、地球温暖化防止に努めています。中国電力株式会社は国際的な再生可能エネルギー事業、生物多様性の保全などに取り組んでいます。札幌市は、市街地の持続可能性に重点を置いた独自の手法で CO₂ 削減に取り組んでいます。

【アクション・プラン】

「プロジェクト S.P.A.R.C.」

ASEAN コミュニティを強化するための持続可能な取り組み

JENESYS 同窓生が中心となり、NGO などの協力を得て、各 ASEAN 諸国で小規模なコミュニティのセミナーを開催します。テーマは、再生可能エネルギー、エネルギーの節約、気候変動対応等に関するものです。各国の「気候変動意識月間」に合わせて、家庭、小規模事業者、農民、若者を対象に、太陽光発電キットの体験型デモンストレーションや学習教材の配布を行う予定です。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）